

農芸化学会会員と年次大会参加者の女性比率（2020年）

1. 会員数と女性比率の推移

2015年以降、会員全体の女性比率に増加傾向が見られる（図1）。会員別で見ると、正会員の女性比率に、緩慢ではあるが上昇が見られる（図2）。学生会員は2015年度以降、女性比率が上昇し2017年には40%を超えた（図3）。アカデミアに所属する会員の女性比率は学生会員と比較して非常に低く、女性の学生会員がその後正会員として留まる割合が男性よりも低いことが見てとれる（図4）。企業に所属する会員の女性比率はさらに低く、上昇がほとんど見られない（図5）。

図1 全会員数に対する女性会員割合の年次推移

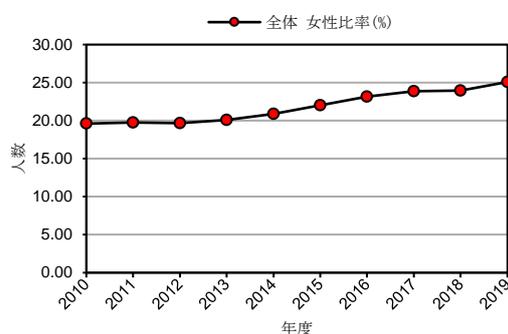


図2 正会員数に対する女性会員割合の年次推移

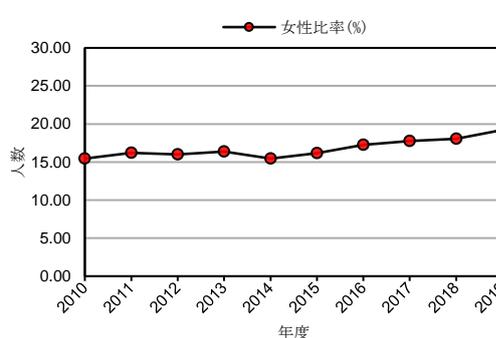


図3 学生会員数に対する女性会員割合の年次推移

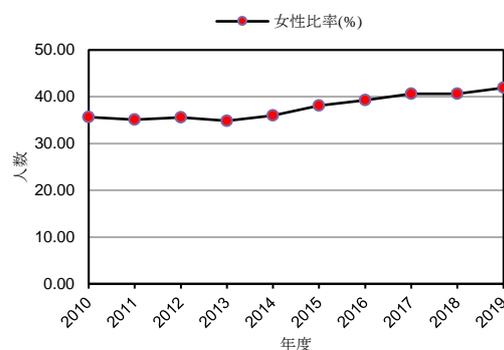


図4 アカデミア等所属の正会員数に対する女性会員割合の年次推移

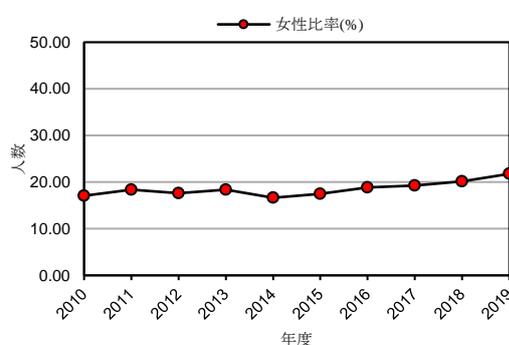
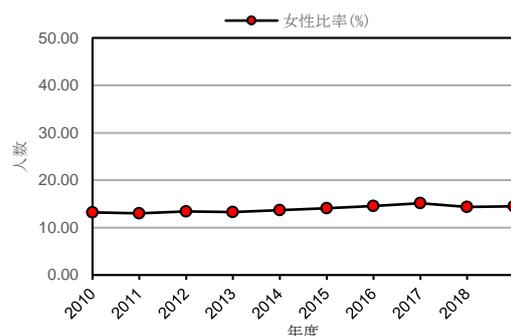


図5 企業所属の正会員数に対する女性会員割合の年次推移

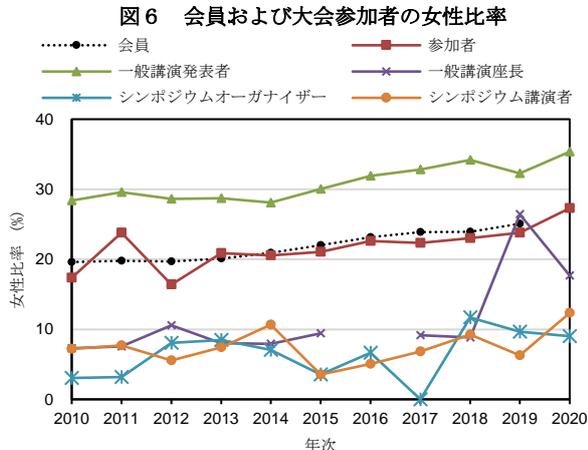


2. 年次大会における女性比率とその推移

2.1. 参加者

大会への参加者数は年度によりバラツキがあるが、2013年度からほぼ維持されてきた。ただし、2020年の年次大会はCOVID-19により開催1ヶ月前に各種イベントの中止が告知されたため、参加者が激減した。参加者全体の女性比率は会員の女性比率ほぼ同じ値で微増してきた(図6)。しかし会員種別でみると、大きな差がある。学生の場合は、会員と大会参加者の女性比率がほぼ完全に一致している

(図7)。企業所属者の場合は、会員の女性比率よりも参加者の女性比率のほうが高い(図8)。一方、アカデミア等所属者では会員の女性比率よりも参加者の女性比率が大幅に低く推移してきた(図9)。



2.2. 一般講演の発表者

一般講演発表者の女性比率が2014年度以降上昇する傾向がみられる(図6)。会員種別では、学生の場合は会員の女性比率と同じ比率で発表者の女性比率が増加し2018年度には40%に達している(図7)。企業所属の発表者については男女共に減少傾向が続いているが、発表者の女性比率は会員および参加者の女

図7 学生の参加者と一般講演演者の女性比率

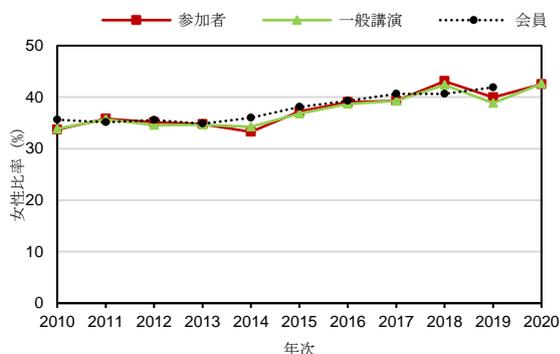


図8 企業所属者の参加者と一般講演演者の女性比率

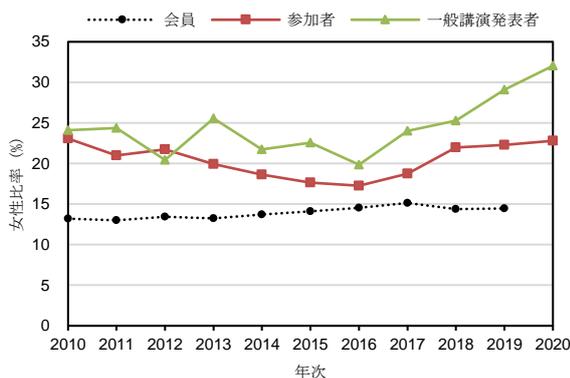
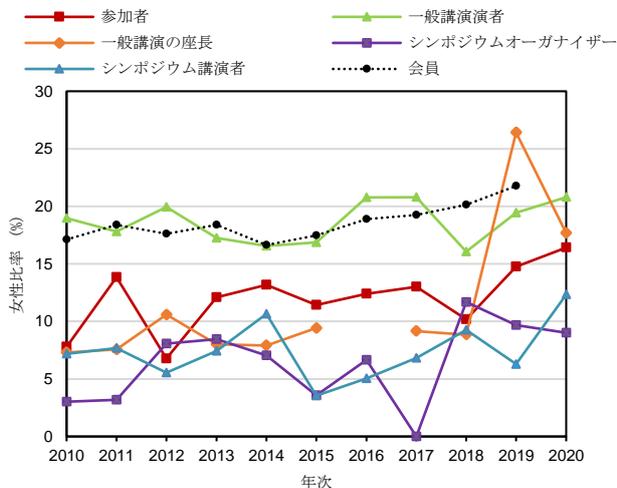


図9 アカデミア等所属の参加者の大会活動における女性比率



注) 2016年度は一般講演がポスター発表であったため座長がなかった。

性比率に比して高く、さらに2017年以降増加しており2019年には約30%に達した(図8)。アカデミア等所属の発表者の女性比率は会員の女性比率とほぼ同じレベルにあり、参加者の女性比率よりも高い(図9)。すなわち、アカデミア等に所属する女性参加者は男性よりも一般講演で発表する率が高い(図10)。

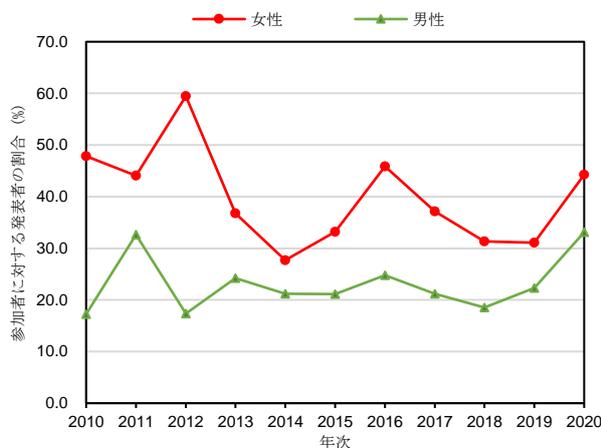
2.3. 座長

2018年度までは、座長の女性比率は参加者及び演者の女性比率と比較して低く(常に10%以下)、また増加する兆しは見られなかった(図9)。しかし、2019年度大会では女性座長数が前年度の大会の倍以上となり、女性比率が大きく増加し一般講演者の女性比率を上回った。2020年大会では女性比率が再び減少し一般講演者の女性比率を下回った。

2.4. シンポジウム

シンポジウムのオーガナイザー及び講演者ともに、女性比率は一般講演演者の女性比率を大幅に下回っている(図9)。

図10 アカデミア等所属の参加者と一般講演者の比率



文責：熊谷日登美、裏出令子

「農芸化学会会員と年次大会参加者の女性比率(2020年)」の著作権は日本農芸化学会に帰属します。よって、本稿の転載および二次利用に関しては、日本農芸化学会の許諾を必要とします。